

銅輸入減少―肉需不透明感や円安で

スクラップ需給はなお過剰気味

橋本金属  
・アルミ橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏  
をめぐるとE.U.、I.M.F  
の実務者協議が合意なく終了  
したこと、三月の米雇用統計  
で非農業の雇用者数の増加が

予測の二四・五万人を大きく下回る一二・六万人と一三年十二月以来の低水準だったこと、失業率が横ばいの五・五%と六年半ぶりの低水準だったことを受けて米利上げ時期の後退観測が台頭したことなどのプラス材料もあったが、FOMC(三月十七、十八日開催) 議事要旨で、利上げ時期に対する委員の見方が割れていたことが明らかになったこと、英ファイナンシャルタイムズがギリシャのデフォルト準備について報じたことなどを嫌気しLME銅相場はDOWN、四月十五日時点で、五、九一六・五〇(セツル)と月初価格より一三四ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、四月のNY連銀製造業景気指数はマイナス一・一九に低下、予想はプラス七・一七、三月の米鉱工業生産指数は前月比〇・六%低下、予想は〇・三%低下などの米経済指標の悪化、四月のユーロ圏PMI速報値は総合が五三・一五に低下、予想の五四・四を下回るなどのマイナス材料もあったが、ECB専門家調査、ユーロ圏GDP伸び率が二〇一五年から一七年まで上方修正した事、米週間新規失業保険申請件数は二九・四万件に増加、予想は二八万件、三月の米住宅着工件数は前月比二%増の九二・六万件、予想は一〇四万件、などによる経済指標悪化からの利上げ時期の後退観測や、WTI原油が再び五七・七四ドルと昨年十二月十二日以来の高値マークしたこと、ギリシャ債権交渉団が再編されたこと、国が地方政府救済債券を現金と交換するプログラムを検討しているとの報を好感し上昇、五月十一日現在、後半スタート価格から四七六ドルUPの六、三九六・五〇ドル。銅値八一万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)  
一・二一〇九→一・二〇(円)  
◆自動車生産台数  
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比六・五%減の八七万八、四八八台であった。

◆自動車販売台数  
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比五%増の一九万八、三七一台。  
◆新設住宅着工戸数  
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比〇・七%増の六万九、八八七戸であった。

輸出は前年同月比二・八%の増加(実績)。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が五〇・五%増の五万七、〇五三t、スクラップが二・一%増の二万四、九一〇t。

輸入は電気銅が前年比五三・三%減の三、四九九t、スクラップ一四、六%減の七、〇一〇t。

■前月の国内指標  
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比〇・六%減の六万九、五九〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比一・一%減の六万二、七〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】  
三月の四輪車生産台数は八七万八、四八八台で、前年同月の九三万九、八三三台に比べて六一、三三五台・六・五%の減少となり、九カ月連続で前年同月を下回った。

三月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。  
乗用車七四万〇、二三六台で六万五、二二三台・八・一%の減少となり、九カ月連続のマイナス。このうち普通車は四二万七、三四六台で三、七八二台・〇・九%の増加、小型四輪車は一四万〇、〇九九台で四万三、一八五台・二三・六%の減少、軽四輪車は一七万二、七九一台で二万五、八三〇台・一三・〇%の減少。

トラック二二万五、九〇二台で二、七四一台・二・二%の増加となり、二カ月連続のプラス。このうち普通車は五万四、九九九台で二、四八八台・四・七%の増加、小型四輪車は三万二、四八一台で一、六四五台・五・三%の増加、軽四輪車は三万八、四二二台で一、三九二台・三・五%の減少。  
バス一万二、三五〇台で一、一五七台・一〇・三%の増加となり、三カ月ぶりにプラス。

このうち大型は一、〇五一台で一九九台・二三・四%の増加、小型は一万二、二九九台で九五八台・九・三%の増加。  
三月の国内需要は六九万五、四一一台で、前年同月比一一・二%の減少であった。うち乗用車五八万六、七九六台で前年同月比一一・九%の減少、トラック一〇万六、〇六五台で同七・七%の減少、バス二、五五〇台で同三・四%の増加。

輸出は前年同月比二・八%の増加(実績)。(六面へ続く)

〔四面より続く〕

【自動車販売】

四月の国内自動車販売台数(軽は除く)は一九万八、三七一台で前年比五%増と、八カ月ぶりプラス。うち、乗用車は二・九%増、貨物は一九・六%増、バスは四五・九%増。

【住宅着工数】

・平成二十七年三月の住宅着工戸数は六万九、八八七戸で、前年同月比で〇・七%増となった。また、季節調整済年率換算値では九二・〇万戸(前月一・七%増)となった。

・住宅着工の動向については、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあって、このところ前年同月比で減少が続いていたが、一三カ月ぶりに増加となった。

・持家の着工については、展示場への来場者数をみると、回復の兆しが見られる。住宅着工については、今般の経済対策等を踏まえ、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【持家】

前年同月比では一四カ月連続の減少(前年同月比一・四%減、季節調整値の前月比では〇・九%増)。

【貸家】

前年同月比では九カ月ぶりの増加(前年同月比四・六%増、季節調整値の前月比では一〇・六%増)。

【分譲住宅】

前年同月比では二カ月ぶりの減少(前年同月比四・九%減、季節調整値の前月比では六・一%減)。

【分譲マンション】

前年同月比では二カ月ぶりの減少(前年同月比八・六%減)。

【分譲一戸建住宅】

前年同月比では一一カ月連続の減少(前年同月比一・六%減)。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比〇・六%減の六万九、五九〇t。このうち、内需五万七、一六〇tで二%減と五カ月連続マイナス。輸出は一萬二、四三〇tで六・四%増と八カ月連続プラス。品種別では、銅条二万二、五八〇tで四・四%増と、二一カ月連続プラス。黄銅棒一万五、二六二tで八%減と八カ月連続マイナス。

最近の傾向として、堅調な板状に対して、銅管、黄銅棒が前年対比でマイナスが続いている。

【銅電線出荷量】

前年比一・一%減の六万二、七〇〇t。うち、国内一・七%減、輸出が二・八%増。部門別では、通信一八・七%増、電力二七・六%増、電気機械〇・六%減、自動車七・二%減、建設電販三・二%減、その他内需一六・一%減。

【輸出】電気銅輸出が前年比五〇・五%増の五万七、〇五三t。銅スクラップは二・二%増の二万四、九一〇t。

【輸入】電気銅が五三・三%減の三、四九九t。スクラップは一四・六%減の七、〇一〇t。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き減少の六・五%減。ただ四月の国内販売台数も前年比五%増と久々のプラス、今後の動向に期待。販売が八カ月ぶ

りにプラス、輸出も二・八増とプラス。

今月も生産台数が減少しているが販売が八カ月ぶりプラス、輸出もプラスで、この流れが五月も続くか今後の動向に注目。

・新設住宅着工数は前年比〇・七%増。季節調整済年率換算値で九二万戸(前月比一・七%増)と前年比で一一カ月ぶりにプラス。季節調整済換算でも二カ月連続プラスに転じた。

・伸銅品 前月はプラスだったが再びの前年比〇・六%減。銅条は輸出を中心に堅調さが見られたが、黄銅棒、銅管は住宅関連の低調さを受けて調整が続いた。

今月も伸銅品生産は板条の増加、輸出に支えられている面もあり、内需が急回復するとは考えにくい。住宅着工が一二月ぶりにプラスだった事から今後の動向に期待したい。

・輸出は一・九(二〇円(TTM))レンジの大幅な円安トレンドから地金・スクラップともに大幅増加した。

輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感から減少したとの見解。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は前月に続き電気銅建値が七六〇円から八一〇円まで急騰した過程で塩漬け玉が発生したが伸銅品生産の低調に伴い発生薄のトレンドは変わらず。ただモノによっては在庫過多のものもある。

メーカー需要は自動車、住宅販売ともに前年比でプラスだったことから今後に期待したいが、まだまだ先行き不透明感が高くやや過剰気味。

【価格・為替予想】

今月は、アメリカの利上げ時期、中国の景気動向に左右される。

米FRBの最近のFOMCで六月利上げを推奨している委員がいたことから、一時NYダウが下落するなど利上げの六月説、九月説、来年説などの様々な憶測がでてきている。

最有力は九月説がマーケットのコンセンサスではあるが、いまだ六月説の可能性も排除できない。中国景気動向については、当局はGDPの減少を受け、金融緩和策、景気対策、雇用対策など様々な手を打った。またマーケットもそれを好感。ただそれに対する効果が現時点では不透明であり、それによってマーケットは大きく揺れ動く。

それらを踏まえた五月の銅価格は、米FRBの利上げ時期が九月以降に後退し、中国経済指標が好転した場合、五月高値のもう一段高の六、五〇〇ドルを予測。いずれかの場合六、四〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合もう一段安値の五、八〇〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて再び六月説も台頭、好調な米経済指標やギリシャ債務問題でのユーロ安から五月中もドル高傾向がづくのではないかと。

今後、米経済指標の悪化が進んだ場合、上値は一・九円台。下値は特に新規材料難のばあい一・二円台と予測(TTM)。

銅建値に関しては七三〇〇〜八三〇〇円程度と予測している。